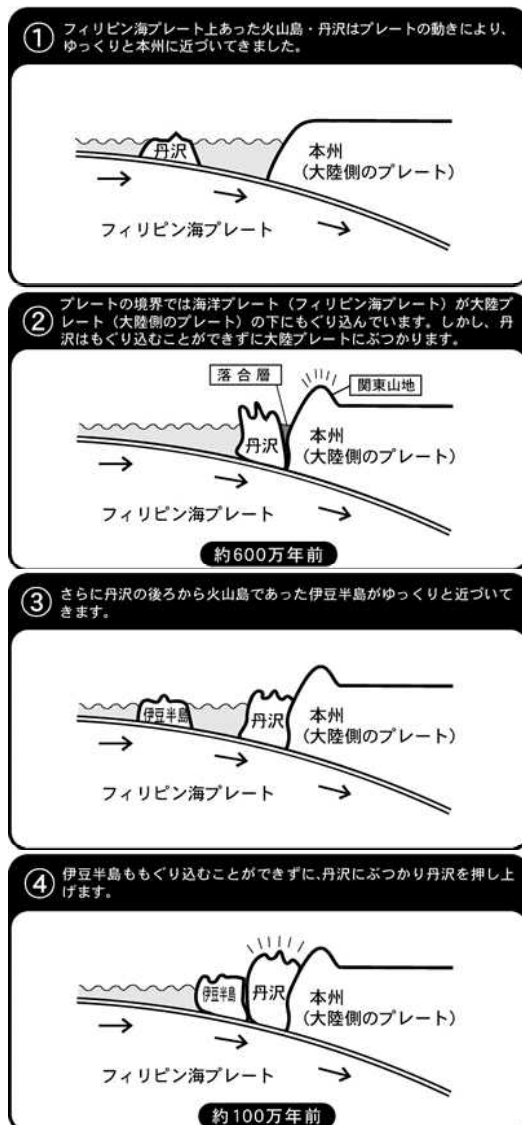


海からきた丹沢

090117：エコツーリズム試行山行用資料



カシミールで作成



プレートテクトニクスという言葉をご存じでしょうか。地球の表面はいくつかのプレート（硬い岩の板を想像して下さい）にわかれ、それが水平に移動するという考えです。この考えから丹沢の生い立ちが説明できます。

はるか昔（約1500万年前）、丹沢は南の海（亜熱帯）にできた海底火山の島でした。島といっても一部が海面に頭をだすような島と考えられています。丹沢はフィリピン海プレート上にあり、1年間に数cmづつ北上しました。

約600万年前、丹沢は本州がのっていたプレートとゆっくりと衝突し、丹沢が下にもぐり込んだため関東山地は隆起しました。

約100万年前、フィリピン海プレートにあった伊豆半島が、丹沢の南側からゆっくりと衝突し、丹沢は隆起しました。

丹沢が本州に衝突した時の証拠が宮ヶ瀬にもあります。衝突した時に両者の間にできた窪みに、大量の堆積物によってできた層で、落合層と呼ばれています。これは礫岩と砂岩からできており、貝やサンゴの化石も含んだ地層です。また、衝突の強い圧力から縦になった地層もありました。残念ながらこれらの多くは宮ヶ瀬湖の湖底に沈んでしまいました。

（宮ヶ瀬ビジターセンターホームページより）